

News Release

富山県立大学

担当：看護学部看護学科

講師 清水 暢子

電話：076-464-5410 (818)

メール：n-shimizu@pu-toyama.ac.jp

令和4年10月24日

「農福連携」事業に対応したスマート農業機器 北陸初！看工農福連携モデルの開発について

農業分野の新たな担い手として、障害を持つ方が自然に触れ、いきいきと働く事を支援するために、本学では看護分野と工学分野の教員（研究者）が共同で農福連携事業推進に向けた取り組みを行っています。今回は、就労継続支援B型事業所の利用者みなさまの協力を得て、知的障害・精神障害があっても使いやすく、農地に対応できる半自動運搬機器を作成し、試運転に至りましたので公開いたします。

- 1 日時 令和4年10月28日（金）午前10時より
- 2 場所 〒937-0022 富山県魚津市小川寺字天神山 5852
就労継続支援B型 生活介護 ぶどうの森
- 3 対象者 障害福祉サービス事業所、農福連携関連施設、
地方公共団体農林水産関係課、地方公共団体障害福祉関係課
障害福祉や就労支援に携わる方 等
- 4 内容 <本機器の特徴>
①知的障害があっても、進行方向の指示や作動、停止を、紐を引くことで簡単に行うことができる。
②1回の充電で1日の作業内で使用する量の電力が確保できる。
③たった10gほどの牽引力で約300kgまでの牽引が可能のため、力の弱い障害のある人でも牽引可能である。
④全てを自動化するものではないため、障害があっても農機器操作に参加できるという満足感と達成感を満たすことができる。
<現状の自動運搬機等の問題点>
・現状の自動運搬機は操作方法が複雑であり、障害のある人向けに作られていない。
・自動化した人追従式自動運搬機は、頻繁に動きまわる障害のある人には危険であり、使用が困難である。
- 5 その他 令和4年10月14日に開催予定だったものが中止になったため、開催日時を変更して開催するものです。取材をご希望される方は、事前に上記担当者までメールにてご連絡をよろしくお願いいたします。